

		卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
理学部	学部全体	<p>理学部理学科</p> <p>理学部は、学士課程教育において、「自然科学に対する幅広い知識と理解および豊かな創造性と国際性を持ち、課題探求能力を備え、科学立国及び地域文化の創造に貢献できる」人材の育成を目的としています。この目的を達成するため、主に1・2年次で実施される学部共通教育および5分野の特性を活かした専門教育を実施しています。さらに、各分野での教育では、「自然科学の特定分野への深い専門性を持ち、得られた真理を簡潔かつ多彩に表現できる人材の育成」を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に、本学部の学位を授与します。</p>	<p>理学部理学科</p> <p>理学部理学科のディプロマ・ポリシーを踏まえて、次のような人材の育成を目指しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然科学に関して広くバランスのとれた知識や思考法および実験・観察の技能を身につけた有能な人材 2. 国際社会における新しいさまざまな課題に積極的に立ち向かうことのできる人材 3. 高い学修意欲を持って理学におけるスペシャリストをめざす人材 <p>そのため、以下に挙げる体系的、段階性、個別化(進路への対応)をもとにカリキュラムを編成しています。</p> <p>体系的: 自然科学の特定分野への深い専門性のための各分野(コース)の学問体系、および、自然科学に対する幅広い知識と理解のための1・2年次(学士前期)に実施する共通カリキュラムを基盤に編成しています。</p> <p>段階性: 基礎的な科目から学年進行に沿って発展的な科目を学修するよう編成しています。また、人間力、コミュニケーション能力、自己管理能力、倫理観を身につけることを目的とした、「教養科目」、「外国語科目」、「情報科目」などは1・2年次に履修し、3年次以降の各分野での専門教育の礎になるようにしています。</p> <p>個別化(進路への対応): 学年に従い学修を深化させるように、授業科目を配置し、個々の履修コースの目的である将来の進路に即した科目履修を保証するよう編成しています。豊かな創造性や課題探求能力の涵養のため実験や実習、演習など能動的な授業を重視します。更に、国際性や表現力なども含め、人材育成の質保証のために卒業研究を必修としています。</p>	<p>理学部が求める人材像</p> <p>理学部では数学と理科の各分野について幅広い興味と理解を有し、自然科学の諸課題に対し意欲的にチャレンジでき、多角的な視点から忍耐強く真理の探究ができる次のような人を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物事の本質を見極めたいという強い意志を持った人 2. 論理的思考ができる人 3. 豊かな感性と洞察力を有する人 4. 野外調査や長時間に及ぶ実験等に対し、忍耐強く取り組める人 5. 広い視野をもち、応用力、実践力のある人 6. わが国の理学研究の発展に貢献したいという意志をもった人 7. 複数の学問にまたがる学問領域にも失敗を恐れず果敢に挑戦できる人 8. 国際的に活躍する意欲のある人 <p>理学部への入学に際して求められる学力</p> <p>数学</p> <p>数学I、数学II、数学III、数学A、数学B(「数列」および「ベクトル」)について、個々の項目の内容をよく理解し、知識と技能を十分身につけておくこと。項目間のつながりを意識し、数学的思考方法を習得しておくこと。また、数学のみならず理科においても、数学的に考察して処理する能力を身につけておくこと。</p> <p>理科</p> <p>物理、化学、地学、生物から2科目以上を習得しておくこと。</p> <p>事物や自然現象についての観察や実験などを行い、自然や科学に対する関心を高め、探究する能力と態度を身につけておくこと。基本的な概念や原理・法則を理解して、科学的な自然観を養っておくこと。</p>
	数学コース	<p>数学コース</p> <p>数学は現実世界の問題を理想化・抽象化してとらえ、普遍性のある解答を与える学問です。数学コースにおいては、数学による課題解決能力を備えることができたかを学位授与の方針とします。具体的には、以下に挙げる知識・能力が確認された場合に修了させ学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学の基本的知識 2. 様々な数学的概念を用いて物事を論理的に考える能力 	<p>数学コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 代数・幾何・解析の基本的知識を獲得させ、数学的概念を用いた論理的思考方法を伝えるため、講義科目を設けています。 (2) 数学の基本的知識をしっかりと定着させ、応用する能力を涵養するため演習科目を設けています。 (3) 文献講読・発表を行う少人数によるセミナーを設けています。 2. 教育内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 講義においては、基本的知識を丁寧に説明し、発展的な内容については研究の背景を説明するなどして、知的好奇心と学習意欲を高めます。講義を聴き、講義ノートを復習することで、知識の確実な理解・定着が可能となります。 (2) 演習は、学生に問題を解かせることでその事項の性質を理解させ、新しい発想を培います。数学的知識を活用する能力、論理的思考力を涵養します。 (3) セミナーでは専門書あるいは論文を精読し、その内容を発表します。発表に対する質疑応答・議論を通して、内容の理解を進め、数学的思考方法を身につけることが可能となります。 3. 評価する成果とその方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 数学的知識の修得に関しては、講義科目の試験、演習、セミナーにおける発表や質疑応答によって評価します。 (2) 数学的思考方法の修得に関しては、演習・試験における証明問題の解答や、セミナーにおける説明・質疑応答によって評価します。 	

		卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
理学部	物理学	<p>物理学コース</p> <p>物理学コースでは、理学全般の広い基礎知識に加えて、物理学分野の専門知識を持ち、柔軟な思考力、問題の本質を探り根本から解決する能力、更に得られた成果を簡潔かつ多彩に表現できる能力を備え、社会の様々な分野で活躍出来る人材の育成を目指しています。このことを踏まえ編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下の知識・能力を身につけたと認められる者に、学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な物理学の素養(基礎知識と実験的または理論的手法) 2. 自然現象を物理的に分析し、得られた知見を正確に説明する能力 	<p>物理学コース</p> <p>1. ディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成 体系性:1年次の「理系基礎科目」および2年次の「理学共通科目」として実施する共通カリキュラムを基盤に、3、4年次では、物理学分野の学問体系に沿った「理学専門科目」を編成しています。 段階性:物理学の高度な専門知識を修得するためには基礎的な知識から積み上げていくことが特に重要です。そのため、基礎的な科目から学年進行に沿って発展的な科目を学修できるよう編成しています。 個別化(進路への対応):学年進行に従い学修を深化させるように授業科目を配置し、将来の進路に即した科目履修を保证するよう編成しています。</p> <p>2. 教育内容・方法 (1)講義においては、物理学の法則、知見を解説し、具体的な自然現象を取り上げその応用法を説明します。基礎的な知識を伝授し、物理的な思考法を修得させます。 (2)物理学のコア科目においては演習を行い、学生に問題を解かせることでその学問内容の深い理解を徹底し、問題の物理的解決法を身につかせます。 (3)物理実験を行い、実験的研究手法を修得すると共に、物理法則を実験により検証することの重要性を学ばせします。レポートを課し、結果を物理的に分析・解釈し、正確に説明する能力を養います。</p> <p>3. 評価する成果とその方法 (1)物理学の基礎知識の修得に関しては、講義科目の試験、演習時における発表や質疑応答によって評価します。 (2)実験的または理論的手法の修得に関しては、物理実験時の実験への取り組み方、演習時における問題の解答法によって評価します。 (3)自然現象を物理的に分析し、得られた知見を正確に説明する能力に関しては、物理実験および演習のレポート、卒業研究の発表方法・内容により評価します。</p>	
	理学科	<p>化学コース</p> <p>化学コースでは、「物質を構成する無機・有機化合物の構造、物理的性質及び反応性、そのふるまいや分析についての理解力と論理的思考力を持つ人材の育成」を目指しています。このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に、学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広範な化学的知識を身につけることができる。 2. 化学実験の基本操作を身につけることができる。 3. 学術論文を読み、科学的、論理的に理解し、第三者に対して説明できる。 	<p>化学コース</p> <p>1. ディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成 化学コースでは、学位授与水準に定めた能力を持つ人材を育成することを目標とし、以下のようにカリキュラムを編成します。 1年次では、理学全般に関する知識や理解力を身につけることを目的として「理系基礎科目」を編成します。また化学実験の基礎的操作法を修得するため「化学基盤実験」を開講します。 2年次前期では、理学全般に関する知識や理解力を深めると同時に、広範な化学全般に関する知識や理解力を身につけることを目的として、「基礎無機化学」、「基礎分析化学」、「基礎物理化学」およびその他のコースの理学部共通科目で履修カリキュラムを編成します。また定性、定量などの専門性を含んだ化学実験の操作法を修得するため「化学共通実験」を開講します。 2年次後期や3年次では、学生の学術的深化に対応し、より深い理解を促し、学生の化学的能力を伸ばすため、化学の領域を細分化し専門科目とした「無機化学I, II, III」、「分析化学I, II, III」、「物理化学I, II, III」、「基礎有機化学、有機化学I, II, III, 有機反応化学」「化学特別講義A～H」を開講します。また「無機化学」、「分析化学」、「物理化学」、「有機化学」の専門化学実験を通じて課題を解決できる能力を修得するため「化学実験A, B, C, D」を開講します。 4年次では、化学における実践的なスキル修得のために、一年を通じて「卒業研究(化学)」に取り組み、専門分野や研究室ごとに研究を実施します。また、「卒業研究(化学)」では、卒業研究発表会や卒業論文の作成を通じて研究成果発表および研究論文作成の基本的なスキルを修得します。さらに、より専門的な科目である「化学特別講義I～L」、世界における化学の最先端の研究に触れて理解し、議論するため「化学セミナー」を開講します。</p> <p>2. 教育内容・方法 (1)講義においては、基本的知識を丁寧に説明し、発展的な内容については研究の背景を説明するなどして、知的好奇心と学習意欲を高めます。講義を聴き、講義ノートを復習することで、知識の確実な理解・定着が可能となります。 (2)実験は、学生に直接、実験操作を行わせることで、化学実験の基礎的操作法を修得、定性、定量などの専門性を含んだ化学実験の操作法を修得、専門化学実験を通じて課題を解決できる能力を修得させ、それぞれの実験の性質を理解させ、新しい発想を培います。さらに化学的知識を活用する能力、論理的思考力を涵養します。 (3)セミナーでは、専門書あるいは論文を精読し、自らの卒業研究を行うことで、専門化学や最先端の化学について、化学的思考方法を身につけることが可能となります。卒業研究発表や卒業研究論文作成では、研究成果発表および研究論文作成の基本的なスキルを修得します。</p> <p>3. 評価する成果とその方法 化学的知識や思考方法の修得に関しては、講義科目の試験、実験およびレポート、セミナーや卒業研究における発表や質疑応答によって評価します。</p>	

		卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
理学部	地球環境科学コース	<p>地球環境科学コース</p> <p>地球のシステムを理解し、地球物質科学・地球変遷学・気象学・水文学・海洋学などに関する基礎知識を有し、各分野の基本となる研究方法(地質調査・化学分析・顕微鏡観察・データ処理など)を修得し、それら実験・観測データを基に、論理的に地球科学的諸現象を説明できる人材育成を目指しています。このことを踏まえ、以下に示す学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を履修させ、所定の単位を修得した者に、学位を授与します。</p> <p>1. 広範な地球環境科学に関する知識を身につける。 2. 地球環境科学分野の調査・分析・実験・観測の基本手法を身につける。 3. 得られたデータと学術論文から、科学的、論理的に理解し、第三者に対して説明できる。</p>	<p>地球環境科学コース</p> <p>1. ディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成 複雑な地球システムを理解するために、多様な科目群と対となる実験・実習群を学年進行に沿って深化するよう配置し、最終年次には指導教員の指導のもと、各人が地球環境科学的諸現象について論理的に理解・考察・説明できるよう3つの履修コースを編成しています。</p> <p>2. 教育内容・方法 (1)講義においては、基本的知識を丁寧に説明し、発展的な内容については研究の背景を説明するなどして、知的好奇心と学習意欲を高めます。講義を聴き、講義ノートを復習することで、知識の確実な理解・定着が可能となります。 (2)実習・実験では、学生が種々の地球環境科学現象を理解すると共に、その分析・解析手法を修得します。特に野外を含めて自然現象の観察力と論理的洞察力を涵養します。 (3)セミナーでは、各人の研究テーマについて、関連分野の既存研究レビューならびに研究内容について発表します。発表に対する質疑応答・議論を通して、研究内容の理解を進め、地球環境科学的論理思考と表現手法を身につけます。</p> <p>3. 評価する成果とその方法 (1)地球環境科学的知識・手法の修得に関しては、講義科目の試験、実習・実験のレポート、セミナーにおける発表や質疑応答によって評価します。 (2)地球環境科学的論理思考の修得に関しては、実習・実験のレポートや、セミナーにおける説明・質疑応答、ならびに卒業研究発表会における研究発表・質疑応答によって評価します。</p>	
	生物学コース	<p>生物学コース</p> <p>遺伝子の役割から生態系の多様性にいたるまでの基礎知識を身につけ、急速に発展する最先端の研究に対しても基本的理解することができる能力を身につけるため、様々な分野に関する知識や実験方法を習熟させ、様々なレベルの情報を統合して論理的に理解し得る能力を身につけた人材を育成します。このことを踏まえ編成・実施された教育課程を履修させ、所定の単位を修得した者に、学位を授与します。</p>	<p>生物学コース</p> <p>1. ディプロマ・ポリシーを達成するための教育課程編成 講義や卒業研究を通して生命のしくみや自然環境に対する理解を深める過程で、自らが思考し、実験や解析計画を構築し、新たな知見を得る確に説明できる能力を身につけるための講義、実習、卒業研究を設けます。</p> <p>2. 教育内容・方法 (1)講義においては、基本的知識を丁寧に説明し、発展的な内容については研究の背景を説明するなどして、知的好奇心と学修意欲を高めます。講義を聴き、講義ノートを復習することで、知識の確実な理解・定着が可能となります。 (2)3年次実習においては、生物領域を細分化し、遺伝子の役割から生態系の多様性にいたるまで、学生の学術的深化に対応し、生物学の様々な課題を解決できる能力を修得します。 (3)4年次では、生物における実践的なスキル修得のために、一年を通じて卒業研究に取り組み、専門分野や研究室毎に研究を実施します。また、生物環境セミナーを通じて、世界における生物学の最先端の研究に触れて理解し、議論します。さらに、卒業研究発表、および、卒業研究論文を通じて、研究成果発表および研究論文作成の基本的なスキルを修得します。</p> <p>3. 評価する成果とその方法 (1)生物学的知識の修得に関しては、試験、セミナーにおける発表や質疑応答によって評価します。 (2)生物学的思考方法、生物学の様々な課題を解決できる能力の修得に関しては、セミナーにおける発表や質疑応答、また、実習・実験結果に関する発表や質疑応答によって評価します。</p>	

学修成果（理学部）

理学科
専門教育および教養教育等の授業を通して、次に挙げる様々な能力を統合し、応用できるようになること。
豊かな教養
・多様な学問観を持ち、人生の幅をひろげ、感性を豊かにし、判断力を身につけている。
確かな専門性
・自然科学に対する幅広い知識と特定分野への深い専門性を有している。
創造的な知性
・創造性を持ち、課題探究能力を備える基盤を持っている。
社会的な実践力
・自然科学の様々な知識を有機的に活用し、結果を多彩に表現することができる。 ・自然科学に関して広くバランスのとれた知識・技術・思考法を身につけている。
グローバルな視野
・外国語の文献を読解することができる。
情報通信技術の活用力
・情報通信技術を使用し、情報の収集・分析を行うことができる。
汎用的な知力
・自然科学に対する幅広い知識を修得し、統合するために必要な基礎学力をもっている。